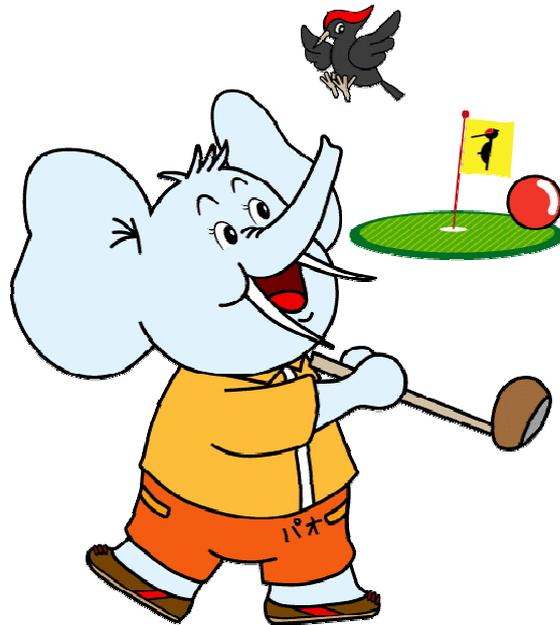


「3,000人の忠類創造へ」

# 忠類地域の振興にかかる提言



平成30年2月

第6期忠類地域住民会議

## ナウマン公園の親水滑り台



## 忠類地域の人口の推移

	男	女	合計	増減	世帯数
H18. 2. 5 (※ 1)	882	972	1,854		741
H18. 3. 31	876	966	1,842	△12	735
H19. 3. 31	868	964	1,832	△10	735
H20. 3. 31	841	943	1,784	△48	726
H21. 3. 31	830	910	1,740	△44	724
H22. 3. 31	820	890	1,710	△30	723
H23. 3. 31	808	881	1,689	△21	727
H24. 3. 31	819	879	1,698	9	746
H25. 3. 31 (※ 2)	795	879	1,674	△24	764
H26. 3. 31	785	869	1,654	△20	763
H27. 3. 31	760	849	1,609	△45	765
H28. 3. 31	742	833	1,575	△34	756
H29. 3. 31	748	823	1,571	△4	759
H29. 12. 31	739	824	1,563	△8	761

※ 1 H18. 2. 6 忠類村と幕別町が合併

※ 2 H24. 7. 9 から外国人を住民基本台帳に記載

## はじめに

平成18年2月6日の合併から12年、幕別町はその歴史を一步ずつ積み重ねてきました。

振り返ると、合併から数年間は、それまでの忠類村との違いから、合併に対する戸惑いや不満を口にする住民も多くいましたが、時の流れとともに、そうした雰囲気も次第に和らぎ、町の一体感の醸成は着実に進んでいると感じられます。

私たち忠類地域住民会議は、6期12年の間、行政と地域住民が協働の地域づくりを推進し、時勢に応じた課題解決のための諮問機関として、多くの地域住民が委員として参画し、2年前には大きな目標として「忠類3,000」を掲げ、様々な視点から議論を重ねてまいりました。

今、国全体が人口減少に伴う超高齢社会に突入し、地方の疲弊は今後ますます進むことが予想され、忠類地域でもこの課題が重く押し掛かっているのが現状であります。

こうした中で、何もしなければ疲弊が進むであろうこの地域で、私たちが活気を生み出し、暮らしていくためには、旧来型の行政主体の地域づくりではなく、住民自らが勇気を持ち、地域を盛り立てる行動をすることが真に求められています。

合併から12年が経過した今、住民会議も地域の変化を受け入れ、新たな歩みを起こす時期が来たのかもしれない。

町は、昨年12月、まちづくりの基本となる第6期幕別町総合計画を策定し、町の将来像を「みんながつながる 住まいる まくべつ」と定め、基本理念や基本目標、基本計画に基づいた各種施策が平成30年度から進められていきます。

第6期の住民会議においても、将来に向かって、持続可能な地域運営のために地域がどうあるべきかを根底に、必要な事項について協議してきたことをまとめましたので、以下のとおり提言といたします。

# 1 交流人口の拡大

## (1) 地域おこし協力隊の配置を

近年、全国各地域で地域おこし協力隊が導入され、その活動が連日のように報道されています。

よく言われることですが、地域の活性化のためには、「よそ者・若者・馬鹿者」の力が必要であるとされています。

忠類では、これまでコンサルタント事業者による地域活性化診断や和歌山大学の学生による観光にかかる提言など、外部の視点を取り入れた地域活性化に取り組んできましたが、地域全体での共有化や情報発信が十分ではなかったという印象を抱いています。

今後、過疎化が更に見込まれる中、地域おこし協力隊による観光資源の発掘やインターネット上の動画共有サービス「You Tube」などへの投稿を通じた情報発信、忠類という小さなコミュニティならではの地域住民と一体となった様々な取組は有効かつ有望であり、活動終了後の定住についての期待も高まりますことから、地域おこし協力隊を忠類に配置されることを求めます。

## (2) ナウマン公園にトイレの早期設置を

高規格幹線道路帯広・広尾自動車道の開通による国道236号の交通量の減少と、それに伴う地域経済への影響緩和を目的として、第4期忠類地域住民会議の提言に基づいて組織された「忠類地域魅力発信事業実行委員会(※)」により、誘客促進のための各種取組が平成27年度から継続して進められています。

また、平成28年度にはナウマン公園の大型遊具の増設、29年度には親水滑り台の設置といった大きな取組がなされました。

リニューアル後、ナウマン公園は、休日には子ども連れの家族で賑わう魅力的な憩いの場として認知され、交流人口の拡大に大きな役割を果たしており、心から感謝申し上げます。

しかしながら、ナウマン公園の利用者の増加とともに、トイレがわかりにくいといった声や、数が不足していることで不便との声も多く聞かれるようになりました。

利用者の多くは小さなお子さん連れであり、今後も気持ち良く利用していただくためにも、親水滑り台利用後の着替え場所を兼ねた多目的のトイレの設置について、早急に対応していただくよう強く求めます。

※ 商工会や観光物産協会など忠類地域の各種団体と町で構成する官民一体の組織

## 2 雇用対策

### (1) 働き手確保のための住宅施策を

全国的に働き手が不足している昨今、忠類においても基幹産業である農業の担い手をはじめ、他の事業者においても雇用者の確保は、切実な問題であります。

近年建設された民間賃貸住宅は、良質ですが帯広市やその近郊と変わらない家賃設定で忠類にしては高めという印象がありますし、一方、公営住宅は家賃が低廉ですが建設から年数が経過しているものが多いことと、世帯構成や所得などの基準で入居できないケースもあり、新たに働き口を求める人にとっては、住宅事情が一つのハードルとなっています。

このことから、地理的条件が有利とは言えない忠類地域において、地域外からの働き手を安定的に確保するため、新規就農や就労を目的とした転入者を対象とした一定期間の家賃の補助や、低廉な専用住宅の供給など、雇用対策を目的とした施策の向上を求めます。

### (2) 保育所の安定運営のために継続的人員確保の対策を

忠類保育所が平成29年4月から運営委員会への委託から町の直営になり、良質な保育サービスの安定的な提供ということ、加えて園長以下の職員は、町職員として任用されるなど雇用の安定化が図られたことに関しましては、大きな前進であり、感謝を申し上げます。

職員の待遇に関しましては、町の保育所の基準があり、これに則したものであることは十分に理解するところでありますが、もともと、正職員と臨時職員には待遇に格差があり、忠類のみならず、町の保育所全体の大きな課題であると考えております。

特に、忠類は帯広市から遠隔地であるため不利となり、臨時的任用職員（保育士）の確保が極めて困難な状況に置かれております。

つきましては、今後の忠類保育所の安定的な運営のためにも、保育士の待遇の更なる改善に特段の配慮を求めます。

### 3 教育

#### (1) 歴史を継承する「地域学」の推進を

合併前の忠類では、小学校の社会科の授業で副読本「ちゅうるい」が活用され、地域の歴史や伝統について理解を深める重要な役割を果たしてまいりました。

この副読本は、合併を機に「まくべつ」に組み込まれ、新たに編纂されましたが、忠類が紹介されているページは限られ、加えて、その歴史にはほとんど触れられていないのが現状であります。

子ども達にとって地域の歴史や伝統についての理解を深める「地域学」は、郷土愛の醸成にも影響を与えるものであり、一旦、地域から離れた場合においても、将来、Uターンで戻ってきて、定住へと結びつくことも期待できます。

「地域学」を進めるためには、小学校などでの活用も視野に入れ、これまで編纂された地域の歴史を伝える文献や古老の話などを基に、かつての副読本「ちゅうるい」のように一冊の本としてまとめることが必要であると考えます。

この編纂には住民が中心となって取り組むことが肝要であり、地域を見つめ直すきっかけや、地域の活性化にも繋がることを期待されますことから、地域学の取組に対する理解と支援を強く求めます。

#### (2) スポーツの少年団活動や部活動における指導者の確保を

幕別町では、現役のオリンピック選手が5人活躍しているほか、去年はプロ野球選手が誕生するなど、子ども達がスポーツで高みを目指すための大きな励みになっております。

忠類においても、少年団や部活動でスポーツに取り組んでいる子ども達は多く、その将来が期待されるところでありますが、指導者との巡りあわせによって子ども達の上達が左右されることも珍しくありません。

これらの指導は、教職員や保護者などの協力によって行われておりますが、ボランティアであることや、時間的にも拘束されることが多く、その負担は相当なものであると推測されます。

特に、教職員におきましては、本来の業務が多忙であることに加え、定期的な異動もあることから、指導者としての継続的な確保には課題があります。

忠類の小・中学校は少人数であることから、多種多様な競技への取組を望むものではありませんが、基礎体力づくりをはじめ、技能向上に向け、子ども達を指導できる外部指導者の継続的な配置を求めます。

## 4 これからの幕別町

### 「幕別町」のイメージの確立を

この度、第6期幕別町総合計画が平成30年度から向こう10年間の「まちの進むべき方向」として定められました。

この計画では、「みんながつながる 住まいる まくべつ」を町の将来像として掲げ、これを実現するために各分野における施策が盛り込まれておりますが、幕別町という「まち」の具体的なイメージが描けないのが正直な印象です。

かつて、忠類村は各施策において「ナウマン象」を前面に打ち出しており、「忠類といえばナウマン象」というイメージは、合併後の今なお、永く受け継がれております。

合併して12年、まちの一体感の醸成、各地域の均衡ある発展がこれまで以上に求められる中、「幕別町」を印象付ける強力なイメージを今後の施策に盛り込み、多くの人に幕別町を知ってもらい、興味関心を持ってもらえるように情報発信していくことが必要ではないでしょうか。

## 第6期忠類地域住民会議

(平成28年2月6日～平成30年2月5日)

委員長	森 徹			
副委員長	赤石 裕元	小野寺真己		
委員	古山 絵里	武内悠紀夫	野坂 正美	邊見 敏夫
	五十嵐克幸	高橋 辰天	遠藤 正明	山田 学
	小椋小百合	菅原 政成	丸田 耕志	西久保光浩
	永田 信	(故)大和田美智子		